厚生労働科学研究費補助金（第３次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

がんリハビリテーションプログラムの開発

分担研究者	岡村　仁	広島大学大学院医歯薬保健学研究院　教授
研究協力者	安部能成	千葉県立保健医療大学　准教授
	阿部　靖	日本リハビリテーション専門学校　講師
	梅澤志乃	東京医科歯科大学大学院　看護師
	大庭　章	群馬県立がんセンター　臨床心理士
	木村浩彰	広島大学病院リハビリテーション部　教授
	栗原美穂	国立がん研究センター東病院　副看護部長
	酒井太一	順天堂大学保健看護学部　講師
	佐藤大介	千葉県立保健医療大学　講師
	鈴木牧子	国立がん研究センター中央病院　副看護師長
	曽根稔雅	東北福祉大学健康科学部　助教
	中谷直樹	東北大学ﾒﾃﾞｨｶﾙ・ﾒｶﾞﾊﾞﾝｸ機構　講師
	永田友美	トヨタ記念病院　理学療法士
	並木あかね	国立がん研究センター中央病院　看護師長
	濱口豊太	埼玉県立大学保健医療福祉学部　准教授
	村松直子	名古屋市立大学病院　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部技師長
	吉原広和	埼玉県立がんセンター　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科主任
	余宮きのみ	埼玉県立がんセンター　医長

研究要旨　がん患者・家族のリハビリテーションニーズ調査，わが国の医療機関に対するがんリハビリテーションの実態調査の結果をもとに作成された，進行がん患者に対するリハビリテーションマニュアル『進行がん患者に対する「起坐・起立・歩行」のためのリハビリテーションマニュアル』の改訂を行い，最終版を作成した。併せて療法士を対象に，マニュアルの中の特にコミュニケーションスキルの部分に焦点を当てた1日研修会を実施し，研修会の前後，終了3ヵ月後の3時点において，confidence，burn-out，attitudeに関する質問紙調査を行った。

A．研究目的

がんリハビリテーションの概念を確立するとともに，がんリハビリテーションプログラムの開発を目指すことを最終目標とする。本年度は，これまでのニーズ調査や実態調査の結果などをもとに作成した『進行がん患者に対する「起坐・起立・歩行」のためのリハビリテーションマニュアル』の改訂を行い，最終版を作成するとともに，マニュアルを用いた研修会を実施し，研修会前後の研修会参加者の変化を調査した。

B．研究方法

マニュアルの改訂に関しては，研究協力者が一堂に会し，これまで得られた専門家の指摘や臨床現場からの意見などに基づき，項目一つひとつについてチェックを行い修正を繰り返した。

研修会の対象は，がん医療に携わる療法士（理学療法士，作業療法士）とした。開催場所は神奈川県川崎市の専門学校で，参加費は無料，参加資格は進行がん患者のリハビリテーションに関わっている療法士，実施日時は臨床現場の療法士が参加しやすく，また日帰り参加の可能な日曜日の 13：00～17：00 とした。

内容については，まずコミュニケーションに関する約 30 分の講義の後，3～4 名の参加

者にファシリテーター1 名，患者役 1 名を加えた計 5～6 名のグループ（計 5 グループ）を編成し，各部屋に分かれてロール・プレイによるコミュニケーションスキル・トレーニングを実施した。なお，患者役は研究協力者が務め，ファシリテーターについては 1 名の研究協力者と 4 名の外部講師が担当した。ロール・プレイで用いたシナリオの一部を示す。

氏名	
年齢 性別	
疾患	脳腫瘍再発
診断	橋神経こう腫・グレードⅡ（初診時）
現在までの経過	約 1 年半前、複視と右上下肢脱力感の精査の結果脳腫瘍と診断。化学療法、放射線療法を実施し、治療開始一カ月後からリハビリ開始。住宅改修を実施し、約１ヵ月後、自宅退院。以後は身体機能維持、日常生活活動の支援目的で外来リハビリ実施していた。退院 4 ヶ月後から復職し、短時間勤務開始。退院 1 年後、左上肢のしびれを自覚。画像上変化なし。3 カ月後、筋力低下、倦怠感などが生じ、画像上で脳腫瘍再発を指摘される。再発後徐々に四肢麻痺が進行。
身体症状	複視、筋力低下、左上肢のしびれ、時折むせる。
治療内容	初回入院時、TMZ 化学療法実施。 退院後、外来テモダール化学療法を継続。 再発後、アバスチン開始。
告知	あり。

評価にあたっては、研修会の前後，研修会終了 3 ヵ月後の計 3 回，基本属性とともに以下の項目について質問紙調査を行った。

1. Confidence

質問項目は

1) 「起き上がりたい、立って歩きたい」と訴えられるような進行期のがん患者さんと，あなたはどの程度自信をもってコミュニケーションをすることができますか？（1 項目）
2) コミュニケーションに関する質問です。各項目について現在どれくらい自信をもって行うことができますか？（18 項目）

であり，選択式での回答を求めた。

2. Burn-out

Maslach Burn-out Inventory (MBI)日本語版を用いた。

3. Attitude

『進行期のがんの患者さんから「本当に歩けるようになるのですか？」と尋ねられたとき、どのような気持ちになりますか』に関する7項目について，「全くそうは思わない」～「とてもそう思う」の7件法で回答を求めた。

（倫理面への配慮）

研修会への参加は自由意思によるものとした。調査票の記載にあたっては，対象者に対して，本研究の目的，方法，内容，プライバシーは厳重に保護されること等を調査票に明記し，調査票の返送をもって研究協力への同意を得るものとした。

C. 研究結果

マニュアルについては，項目ごとに討論を重ね，現時点での最終版を完成させた（下図）。

研修会については，募集人数最大20名に対し，計16名から参加申し込みがあり，16名全員が研修会に参加し，前後評価を行った。参加者の内訳は，理学療法士が7名，作業療法士

が9名であり，男性5名，女性11名であった。

質問紙調査は，研修会前後の2回実施し，終了3ヶ月後調査は平成25年2月に郵送法により行い，結果の集計は3回の調査が完了した時点で行う予定である。研修会参加の感想としては，これまでにあまり経験がなく，勉強になったという声が多数聞かれるなど，その有用性が確認された。

D. 考察

これまで実施してきたがん患者・家族に対するニーズ調査，緩和ケア病棟ならびに一般病棟におけるがんリハビリテーションの実態調査，および現場の医師・看護師を対象としたインタビュー調査から，がん患者，特に進行がん患者に対してリハビリテーションが担うことのできる役割は大きく，患者や家族，さらには医療従事者のリハビリテーションニーズも高いことが明らかになった。しかし同時に，リハビリテーションを行っていく上での指針がないことによるリハビリテーション実践の立ち遅れや，リハビリテーションに携わる医療者に対するコミュニケーション能力を含めた教育の必要性も示された。以上のことを踏まえ，医師，看護師，理学／作業療法士，心理療法士等の多職種間で繰り返し検討した結果，PS3～4の進行がん患者を対象とした，起立，歩行，移動に焦点を当てた実践可能なリハビリテーションマニュアルを作成した。これまで改訂を重ね，昨年度までに第3版を作成したが，さらに緩和ケアあるいはリハビリテーションの専門家に意見を求めるとともに，本マニュアルを実際に使用した臨床現場の療法士からの指摘を踏まえさらに検討を重ね，今回，最終版を完成させることができた。今後は，本マニュアルをどのように活用していくかが課題である。

研修会については，昨年同様，参加者から概ね高い評価が得られた。本年度の3ヵ月後のデータが収集できた時点で，昨年度のデータと併せ，マニュアルと本研修会の有用性を検討していきたいと考えている。がん患者に対するリハビリテーションに関心が向けられている中，これまで療法士を対象として専門的な知識を提供する場はなかった。このため，がん医療に携わる療法士は，がんという病気の理解やがん患者とどのように接すればよいのかについて，十分に学習する機会がなかったといえる。今回の試みから，本マニュアルや研修会は進行がん患者にリハビリテーションを行っていくうえでの一つの指針となる可能性が示唆された。

E. 結論

進行がん患者に対するリハビリテーションマニュアルを作成し，マニュアルに基づいた研修会を，がん医療に携わる療法士を対象に実施し，概ね好評な結果が得られた。今後は，本研修会の効果を客観的に評価していくとともに，マニュアルの活用方法を検討していくことが必要である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Yokoi T, Okamura H, et al: Conditions associated with wandering in people with dementia from the viewpoint of self-awareness: Five case reports. Am J Alzheimers Dis Other Demen 27: 162-170, 2012
2. Yokoi T, Okamura H, et al: Investigation of eating actions of people with dementia from the viewpoint of self-awareness. Am J Alzheimers Dis Other Demen 27: 228-237, 2012
3. Niiyama E, Okamura H: Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts in the workplace. ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ Nurs Care Res 11: 33-42, 2012
4. Niiyama E, Okamura H: Effects of group therapy focused on the coping strategies of new female nurses who experienced violent language and violent acts from patients. ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ Nurs Care Res 11: 43-52, 2012
5. Niiyama E, Okamura H: Effects of group therapy focused on the cognitions of new female nurses who experienced violent language and violent acts by patients. ｲ

ﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ Nurs Care Res 11: 83-92, 2012
6. Niiyama E, Okamura H: Relationship between adult children property and self esteem of nursing students. ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ Nurs Care Res 11: 93-99, 2012
7. Abe K, Nakaya N, Sone T, Hamaguchi T, Sakai T, Sato D, Okamura H: Systematic review of rehabilitation intervention in palliative care for cancer patients. J Palliat Care Med 2:131. doi:10.4172/2165-7386.1000131, 2012
8. 岡村　仁: がんのリハビリテーション－チームで行う緩和ケア－：心のケアとリハビリテーション. MEDICAL REHABILITATION 140: 37-41, 2012
9. 岡村　仁：がん患者のリハビリテーション：心のケアとリハビリテーション. がん看護 17: 751-753, 2012
10. 花岡秀明, 岡村　仁, 他：地域ボランティア活動の有効性に関する予備的検討－回想法グループへの参加を通して. 作業療法ジャーナル 46: 292-296, 2012

学会発表
1. 岡村　仁：リハビリテーションにおける心のケアの重要性. シンポジウム 3. リハビリテーションとこころのケア. 第 25 回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012 年 9 月 21 日. 福岡市
2. 岡村　仁：特別講演. がん患者に対するリハビリテーション. 第 30 回日本リハビリテーション医学会　中国・四国地方会. 2012 年 12 月 2 日. 広島市
3. Niiyama E, Okamura H: Effective of cognitive behavior on reducing trauma from verbal abuse and violence in newly hired women nurses. The 2nd. Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education. May 4-6, 2012. Taiwan, China
4. Ueno K, Okamura H: Reminiscence therapy for cancer patients with recurrence. MASCC/ISOO 2012 International Symposium. June 28-30, 2012. New York, USA
5. Hanaoka H, Okamura H, et al: Mediun-term effects of reminiscence therapy using odor stimulation in community-dwelling older adults. International Psychogeriatric Association International Meeting 2012. September 7-11, 2012. Cairns, Australia
6. Miki E, Okamura H: The effectiveness of the speed feedback therapy system in elderly cancer patients: Progress report. International Psychogeriatric Association International Meeting 2012. September 7-11, 2012. Cairns, Australia
7. Ueno K, Okamura H, et al: Effect of reminiscence therapy for psychosocial support in cancer patients with recurrence. 17th International Conference on Cancer Nursing. September 9-13, 2012. Praha, Czechoslovakia
8. Nosaka M, Okamura H, et al: A study of integrated yoga program as a stress management in Japanese university freshmen. 6th International Conference of World Council for Psychotherapy. September 24-26, 2012. New Delhi, India
9. Kaneko F, Okamura H, et al: Psychosocial support provided by occupational therapists for convalescent patients with cerebrovascular accidents11th World Congess of World Association for Psychosocial Rehabilitation. November 10-12, 2012. Milano, Italy
10. Funaki Y, Okamura H: A study on effect of reminiscence therapy on frontal lobe function. 11th World Congess of World Association for Psychosocial Rehabilitation. November 10-12, 2012. Milano, Italy

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）
1. 特許取得
なし。

2. 実用新案登録
なし。

3. その他
特記すべきことなし。